

「古代の太陽」について

2018.7.23 工芸ものづくり科（産業科窯業班）

「古代の太陽」は、豊明が茨戸に移転してから正門前に設置されている、本校のモニュメント。生徒や教職員、地域住民から長年親しまれていますね。13日には、2、3年生の作業で、作者の川上りえさんが講師に来てくれ、一緒に鑑賞をして、粘土で古代の太陽を作りました。

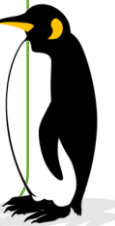
みなさん興味津々で作品や素材の話聞いていました。今回は、製作ではなく制作、製品ではなく作品づくりという意識で、思い思いの、自分の太陽を自分の太陽を作りあげました。完成が楽しみです。

Q. 制作にはどれくらいの時間が、かかりましたか？

A. 1年前に依頼を受けて、それから作りました。大きいので、多くの人と協力して作りました。

Q. 作品の正面はどちらですか？

A. どちらも正面と捉えていいですが、制作中は、学校の校舎が見える方を正面と考えていました。皆さんにとっての正面を考えてくれたらうれしいです。



「古代の太陽」は3つの太陽の形から成り立させています。三は奇数です。偶数は、割り切れる数だけど、奇数は割り切れません。3つの太陽は、友達の数を意識しました。友達が二人だと、話しやすいですね。三人のとき、二人ばかり話していると、一人あぶれやすい。二人より、三人でつきあう方が気配りや思いやりが必要です。これは、一歩引いて全体を眺める視点を持つことにも繋がります。社会の中で人と触れ合うとき、それはとても大切なことだと思います。

Q. 古代の太陽のくぼみは、何を表現していますか？

A. 顔に見えたり、いきものに見えたりしませんか？リズムが欲しかったので、直感でつけました。



「古代の太陽」と一緒に記念撮影